古石ひでさと4期目に向かっての議会活動　ひでさと

古石　後援会だより

URL：http://古石.com/

第　３３９０号
発行令和２年１０月
古石　ひでさと後援会事務所
岩見沢市幌向南１条１丁目
TEL　２６－２２２６

市政についてご提案、ご意見などがありましたらお聞かせください。

E-mail-furuishi@gray-plala.or.jp

核のごみ「即断」には経産省の影あり

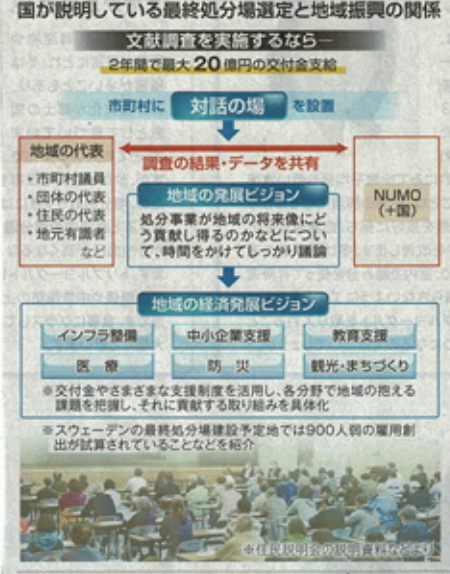
「即断」に経産省の影

NUMO 戸別訪問、勉強会

地域振興、支援を強調

核のごみ　どこへ　緊急リポート　下

国が説明している最終処分場選定と地域振興の関係



原発から出る高レベル放射性廃棄物（核のごみ）の最終処分場選定を巡り、後志管内神恵内村が国からの文献調査申し入れを受諾する約2週間前の9月20日。普段は人通りもまばらな村内を見慣れないスーツ姿の男性たちが歩き回っていた。3日後からの住民説明会のチラシを配り歩く、核のごみの処分を行う原子力発電環境整備機構（NUMO）の職員だった。

NUMOは経済産業省所管の法人で、東京から現地入りしたのは総勢16人。1日で村内の約470世帯を全て回った。村商工会が調査受け入れを求める請願を村議会に提出してからわずか3週間で実施された「ロラー作戦」。推進派村議の1人も「あまりに段取りが良すぎる」と舌を巻いた。

職員の多くは、北海道電力を含む原発を持つ各地の電力会社からの出向者。「何度も家に足を運べば、人との付き合いになる。反対派の人たちも軟化する」（大手電力幹部）。戸別訪問を重ねて、地域に入り込む手法は、原発建設時のやり方そのものだ。

文献調査に応募した同管内寿都町では「トップダウン」で議論を進めたが、神恵内村では商工会や村議会が村長の背中を押す「ボトムアップ」の形となった。国の申し入れを受諾する形で調査に踏み出す流れの裏でも、NUMOの影が見え隠れする。

関係者によると、商工会は今年2月ごろ、処分場誘致を検討する委員会を設け、NUMO職員も招き、勉強会を秘密裏に重ねた。委員の1人は「表沙汰になれば、議会に情報が出せなくなると思った」と明かす。職員が招かれた勉強会の後、委員会は請願の提出を決定。今月9日の調査受け入れへとつながった。

「地域社会の同意の下に取り組みを進めていくという基本コンセプトを盾に、原発事故で完全に崩れた。処分場選定の議論を前進させることは、「トイレなきマンション」という批判をかわし、北電泊原発（同管内泊村）の再稼働期間も含めた原発政策の行き詰まりを打破することにもつながる。こう考えてきた国とNUMOは神恵内村以外でも布石を打ってきた。

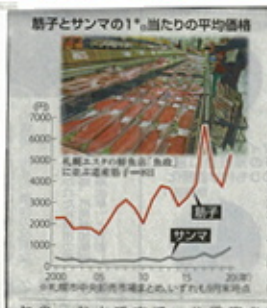
片岡町長に文献調査の情報を伝えたのは北海道経済産業局。町長が昨秋、胆振東部地震後の地盤調査の制度を探していた時のことだった。神恵内村の応募の動きが表面化した9月には、経産局幹部が後志管内の全20市町村を回って反応を確認し、説明会開催の感触も探った。

国は昨年11月から、処分場選定に関する説明会では地域振興の利点を強調する戦略を強化。今月5日に寿都町で開催された産業団体との意見交換会では、経産省資源エネルギー庁の担当者は処分場誘致で約900人の雇用創出が見込まれるスウェーデンの例を紹介。日本でもインフラ整備や中小企業への融資、将来世代の教育などを国が支援していくとアピールした。

担当者は「文献調査に合わせて『対話の場』を設け、地域の未来にとってどのように貢献できるか、住民の皆さんと一緒に考えていきたい」と話した。

サケ不漁 筋子1キロ5000円

秋の味覚 高根の花に



サンマも不振続く

秋サケ漁獲減の不安を受け、道産筋子の市場価格が高騰している。9月末時点で1キロ平均5千円を超え、記録のある2000年以降では2番目の高値に。10月に入り、イクラの製造が本格化すると、鮮魚向けの需要は対応に追われる。サンマも10日に初競り。漁獲量は今年一番の5508トンを水揚げしたが、不漁傾向は変わらず、秋の味覚が手の届かない存在になりつつある。

JR札幌駅前の複合商業施設「札幌エスタ」の鮮魚店「魚政」では、筋子大きな1腹の秤売り価格が100グラム980円で売られていた。この鮮魚店舗を統括する同社の担当者は「